

のぞましい家庭教育のしおり

令和7年11月
第651号
刈谷市教育委員会
刈谷市児童生徒愛護会

～家族がいる幸せ～

我が家は、6人家族です。結婚2年目に主人の両親との同居生活が始まりました。「同居がいい」と決めた大きな理由は二つありました。一つ目は、義父が隔週で夜勤になるため、義母が1人になることへの不安が大きかったことです。二つ目は、私たちが共働きだったため、近い将来、子どもが生まれたときにはお世話をお願いしたいと考えていたからです。

4人で始まった同居生活はとても静かなものでした。決して仲が悪いわけではなかったのですが、共通の話題がそんなにあったわけでもなく、同居と言っても家族の距離は遠かったことを覚えています。さらに、私は婦人科系の病気を患い、医者からは「子どもは諦めてください」と宣告されました。自分の思い描いていた人生に希望をなくし、今後の人生について主人と話したものです。義父の定年も近づくと、同居の必要性についても考えさせられる日々でした。

そんな中、紹介された大きな病院で診察を受けた際、「投薬治療がうまく効けば、妊娠も不可能ではありません」と説明を受けました。期待してはいけないと思いながらもこの言葉を希望の光とし、半年以上の治療の末、妊娠することができました。義父母に妊娠の報告をしたときには、ふだん無口だった義父がソファから転げ落ち、泣いて喜んでくれました。息子が生まれると、育児に積極的に関わってくれるようになり、息子を通して義父母との会話も増えました。遠いと思っていた家族の距離が縮まり、笑い声の絶えない日々となったことに、我が子の存在の大きさを実感しました。



その後、もう1人息子を授かりました。2人の息子も、今では高校生と大学生になりました。大きくなった今でも、義母は「ただいま」と元気に帰ってくる孫の姿が最高に愛おしく、自分の生きがいだと話します。義父は、孫の試合があると私たちの代わりに送迎してくれたり、試合観戦を楽しんだりしています。何より、息子たちも義父母に懐き、何でも言い合える関係になっていることを私自身うれしく思っています。

今年、久しぶりに写真屋さんで家族写真を撮りました。6人それぞれの笑顔に満ちた写真を見て、一度は諦めかけていたこの未来が、今、最高の形で作りあげられている現実に関心がいっぱい熱くなりました。

「家族」とは…。人によって捉え方はさまざまだと思いますが、私にとって家族は、「幸せの源」だと感じています。産める身体にしてくれたお医者様はもちろん、産まれてきてくれた我が子、そして、それを支えてくれている家族に感謝しかありません。今の幸せを噛みしめながら、これからも笑顔の絶えない家族生活を送っていきたいです。

一人で悩まないで、まず相談を

・刈谷市 子ども相談センター ～子どもに関する相談の総合的な窓口～

月～土曜 9時～17時（国民の祝日・年末年始を除く）

電話相談・来室相談

☎0566-62-6313

・愛知県 教育相談こころの電話 10時～22時 ☎052-261-9671